

三色旗あれこれ

早慶戦で神宮球場に力強くはためく「Blue Red and Blue」の塾旗。
義塾のビジュアルシンボルとして、式典・行事、塾員の集まりなどで掲揚されている。
今回は、多くの人々から親しまれてきている塾旗の来歴をめぐるさまざまなエピソードを紹介する。

塾生の考案から生まれた 三色旗

多くの人々から「三色旗」と親しまれている塾旗だが、「三色」といっても、実際は青と赤の2色を3段に配したデザインで、もともと慶應義塾が公式に制定したものではない。ペンマークと同様に塾生の考案によるもので、それが歳月を経て次第に塾生の間で広まっていったようだ。三色旗が塾旗として「公認」された



三田演説館

のは、どうやら鎌田栄吉塾長が就任した1898（明治31）年頃のことらしい。1930（昭和5）年に鎌田元塾長が語ったところによると、塾長就任当時、運動会などで使用していた

紅白幕の白地が汚れやすく不経済という理由で浅黄色に変えられた。「其の頃丁度又塾の旗が必要だと云ふので兎角の考案も出たが、私は矢張り前の幔幕と同様に浅黄と紅を取合わせたものがよからうと申したので、夫れにペン章を付けて今現に使用してゐるやうな三色旗が出来た」。だが、それ以前にも塾生たちが三色旗を「塾旗」として使っていた形跡がある。たとえば、1894（明治27）年11月、塾生が日清戦争における旅順口陥落祝賀のカンテラ行列を行ったことが『時事新報』の記事になっており、その行列に塾旗がひるがえっていたことが記されているの



塾監局（三田キャンパス）

だ。また、同年12月刊の『風俗画報』第82号にもこの行列のことが絵入りで報道されており、そこには色彩こそ不明ながらペンマークを付して3段に色分けした塾旗のイラストが掲載されている。やがて浅黄色は青に変わり、明治40年代には「Blue Red and Blue」が義塾のスクールカラーとして広く用いられるようになった。

塾旗はいわば自然発生的に生み出されたものだけに、長らくその色彩や形・サイズ規格がまちまちだった。そこで1964（昭和39）年に「塾旗の基準について」として初めて寸法・色、ペンの型・位置、三色の割合が明確に定められた。その後、



(左) 應援指導部による金ペン塾旗の掲揚
(右) 2023年秋の早慶戦、金ペン塾旗、最後の掲揚
(写真中央)



塾旗掲揚の様子は、こちらの慶應義塾
公式YouTubeよりご覧いただけます

キャンパスから 宇宙空間まで

1992（平成4）年には義塾のサ
ービスマークとして商標登録がなさ
れ、法的にも保護されている。そし
て義塾創立150年を前に、200
5（平成17）年にはペンマーク、エ
ンブレム、三色旗の三つのシンボル
のVI（ビジュアル・アイデンテ
イティ）ガイドラインが完成（20
15年8月一部改訂）。多くの方が
塾旗をはじめとした義塾のシンボル
を利用できるようになっている。な
お、VIガイドラインは、Webサ
イトから閲覧可能である。

1958（昭和33）年の義塾創立
100年の元旦、図書館旧館の南隣
にある塾監局の屋上に塾旗が初めて
掲揚され、以来、義塾の記念日や式
典、行事などの際の塾旗掲揚が習い
となった。現在でも、記念日などに
それぞれのキャンパスで空にひるが
える塾旗を目にする機会は少なくな
い。各キャンパスで塾旗が掲揚でき
る場所は次の通りである。

【三田キャンパス】塾監局屋上、東館、
三田演説館入口、南校舎入口

【日吉キャンパス】日吉記念館屋上
【矢上キャンパス】創想館屋上
【信濃町キャンパス】2号館中庭
【湘南藤沢キャンパス】A館（本館）前
【芝共立キャンパス】1号館入口

塾生なら誰もが入学式で日吉記念
館の壇上に掲げ
られた特大サイ
ズの塾旗を目に
したことがある
はずだ。この旗
の寸法は縦3・
3m×横6m。
しかし、最大の
塾旗は三田キャン
パス西校舎ホ
ール・北館ホー
ルに掲揚される
もので、縦がや
や長く4・1mある。なお、式典等
の際には三田演説館、信濃町キャン
パス北里講堂、湘南藤沢キャンパス
B館などでも壇上に塾旗が掲げられ
る。

こうした各キャンパスで式典の際
に掲げられる塾旗とは別に、特別な
舞台でのみ掲揚された塾旗もある。



2026年度大学入学式の様子

東京六大学野球の神宮球場で、優勝
のかかった早慶戦という大舞台での
み掲げられた「金ペン塾旗」である。
通常の黄色ではなく金色のペンマ
ークが施された特別仕様だが、傷みが
激しく、慶應義塾が早稲田を下して
リーグ優勝を果たした2023年の

秋を最後に引退となった。
塾員・塾生が歓喜に沸いた
秋の空には、金色のペンマ
ークが誇らしくひるがえり
最後の勇姿を輝かせたので
ある。

また、最も遠くまで行っ
た塾旗といえ、1994
（平成6）年・1998（平
成10）年に塾員で日本初の
女性宇宙飛行士である向井
千秋君（1977年医学部
卒）がスペースシャトル搭
乗時に持参したものだ。帰還後
には三田や信濃町で塾旗返還式が行
われた。

塾生の発意から生まれ、時を超え
て受け継がれてきた塾旗。それは単な
るシンボルではなく、脈々と受け継が
れる「独立自尊」の理念を体現する
存在といえるのではないだろうか。

※本記事は2007年No.255に掲載した「三色旗あれこれ」を、新たなエピソードを加えて再編集したものです。